

「キャラの立った高齢者」の妖怪？

馬奈木 昭雄

精神科医の斎藤環氏が、朝日新聞の2月24日付紙面で、「差別発言キャラで免責」という寄稿を行っています。今話題になっている曾野綾子氏の「アパルトヘイト容認コメント」についての意見です。斎藤氏はこのように指摘しています。

「何故日本のマスメディアはすぐに反応しなかったのか。これも現政権による言論統制の成果なのか。おそらくそうではない。今回のコラムは『あの曾根綾子が』いかにも『あの産経新聞に』書きそうな内容だった。つまり“平常運転”なのでニュースバリューはなかった。もし曾根氏が『格差解消のためにも累進課税の導入を』などと発言したら一大ニュースだ。人が犬を噛んだらニュースになる、とはそういうことだ。」

「キャラの立った保守論客のトンデモ発言すらも、『ああいうキャラだからしょうがない』と笑い、『ツッコむだけ野暮』と免責する程度には寛大だ。しかしこれは、『立ったキャラ』の言動については責任能力を問わない、という意味で差別であり、キャラの人権の否定に他ならない。」

「私は曾根氏の人権の回復のためにも、メディアが彼女をキャラとして差別し消費することに、強く反対するものである。」

私はこの文章を読んで思わず「笑い」ました。まさにするどい「ツッコミ」です。けっして「野暮」ではないと同感です。

新聞広告クリエイティングコンテスト2013年度最優秀受賞作品として「めでたし、めでたし？」があります。この広告は大きな一面の中央部分に子供の手な字で、「ボクのお父さんは、桃太郎というやつに殺されました」と書いてあり、その下に小さな金ぼうを左手を持った小さな鬼の子供のしょんぼりとした泣いている姿が描かれています。その下にさらに小さな字で、「一方的な『めでたし、めでたし』を生まないために。広げよう、あなたがみている世界」というコピーが書かれています。桃太郎の童話は、まさに「大日本帝国」の侵略戦争（富国強兵）のスローガンとして使われました。三番以降の歌詞を私は知りませんでしたが、此のようだそうです。

三 行きましょう 行きましょう あなたについて何処までも 家来にな  
って行きましょう

- 四 そりゃ進め そりゃ進め 一度に攻めて 攻めやぶり つぶしてしま  
え 鬼が島
- 五 おもしろい おもしろい のこらず鬼を 攻めふせて 分捕物を え  
んやらや
- 六 ばんばんざい ばんばんざい お伴の犬や 猿 雉は 勇んで車を  
えんやらや

しかし、鬼は、桃太郎の住んでいる村人たちをいじめ、害を与えていたわけではありません。まさに村人とは関係のない遠い外国へ「家来」をきびだんご一つでひきつれて、「残らず鬼を攻めさせて、分捕物を勇んで車」につんで帰ってきたのです。村人は鬼が退治されたことよりも、車に山と積んだ「分捕物」のわけまえに拍手かっさいしたことは、絵本をみても明らかです。「この道しかない」といつのる総理大臣に、「キャラが立った高齢者の妖怪」と切りすてず、総理の「人権」を回復するためにも、かたよった主張にとらわれないためにも、「広げよう、あなたがみている世界」と呼びかける国民的努力が必要なように思われます。